

豊田工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)	授業科目	英語講読ⅢA
科目基礎情報					
科目番号	03127		科目区分	一般 / 選択必修 (英)	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	電気・電子システム工学科		対象学年	3	
開設期	前期		週時間数	2	
教科書/教材	Interpretive Reading (自作テキスト)				
担当教員	鈴木 基伸				
到達目標					
(ア) Interpretive Readingの学習を通して、英文の内容を把握し、毎分120語程度の速度で聞いて、概要を把握し、情報を聞き取り、関心のあるトピックについて、200語程度の文章をパラグラフライティングなど論理的文章の構成に留意して書くことができる。 (イ) 英語コミュニケーションのための基礎的スキルとして、教室内外でのやり取りや教室外での日常的な質問や応答、発表のための準備活動や情報収集、効果的なコミュニケーション方略（ジェスチャー、アイコンタクト、代用表現、聞き返しなど）の使用、および平易な英語での口頭発表や内容に関する簡単な質問や応答などのやりとりができる。 (ウ) 母国以外の言語や文化や歴史に敬意を払い、様々な国の生活習慣や宗教的信条、価値観などの基本的な事項について理解し、異文化の事象を自分たちの文化と関連付けて解釈し、教室内外で英語で円滑なコミュニケーションをとることができる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安(可)		未到達レベルの目安
評価項目(ア)	Interpretive Readingの学習を通して、英文の内容を把握し、毎分120語程度の速度で聞いて、概要を把握し、情報を聞き取り、関心のあるトピックについて、200語程度の文章をパラグラフライティングなど論理的文章の構成に留意して書くことができる。		Interpretive Readingの学習を通して、英文の内容を把握し、毎分100語程度の速度で聞いて、概要を把握し、情報を聞き取り、関心のあるトピックについて、120語程度の文章をパラグラフライティングなど論理的文章の構成に留意して書くことができる。		Interpretive Readingの学習を通して、英文の内容を把握し、毎分120語程度の速度で聞いて、概要を把握し、情報を聞き取り、関心のあるトピックについて、200語程度の文章をパラグラフライティングなど論理的文章の構成に留意して書くことができない。
評価項目(イ)	英語コミュニケーションのための基礎的スキルとして、教室内外でのやり取りや教室外での日常的な質問や応答、発表のための準備活動や情報収集、効果的なコミュニケーション方略（ジェスチャー、アイコンタクト、代用表現、聞き返しなど）の使用、および平易な英語での口頭発表や内容に関する簡単な質問や応答などのやりとりができる。		英語コミュニケーションのための基礎的スキルとして、教室内外でのやり取りや教室外での日常的な質問や応答、発表のための準備活動や情報収集はできるが、効果的なコミュニケーション方略（ジェスチャー、アイコンタクト、代用表現、聞き返しなど）のうち、「代用表現、聞き返し」ができない。また平易な英語での口頭発表はできるが、内容に関する簡単な質問や応答などのやりとりができない。		英語コミュニケーションのための基礎的スキルとして、教室内外でのやり取りや教室外での日常的な質問や応答、発表のための準備活動や情報収集、効果的なコミュニケーション方略（ジェスチャー、アイコンタクト、代用表現、聞き返しなど）の使用、および平易な英語での口頭発表や内容に関する簡単な質問や応答などのやりとりができない。
評価項目(ウ)	母国以外の言語や文化や歴史に敬意を払い、様々な国の生活習慣や宗教的信条、価値観などの基本的な事項について理解し、異文化の事象を自分たちの文化と関連付けて解釈し、教室内外で英語で円滑なコミュニケーションをとることができる。		母国以外の言語や文化や歴史に敬意を払い、様々な国の生活習慣や宗教的信条、価値観などの基本的な事項について理解し、異文化の事象を自分たちの文化と関連付けて解釈、および、教室内外での英語による円滑なコミュニケーションをとることができるが、教室外では英語によるコミュニケーションをとることが困難である。		母国以外の言語や文化や歴史に敬意を払い、様々な国の生活習慣や宗教的信条、価値観などの基本的な事項について理解し、異文化の事象を自分たちの文化と関連付けて解釈し、教室内外で英語で円滑なコミュニケーションをとることができない。
学科の到達目標項目との関係					
本校教育目標 ④ コミュニケーション能力					
教育方法等					
概要	Interpretive Readingの学習を通して、英語の四技能（リスニング、リーディング、スピーキング、ライティング）の総合的な力を養う。また、英語コミュニケーションのための基礎的スキルとして、教室内外でのやり取りや教室外での日常的な質問や応答の仕方、発表のための準備や情報収集の方法、効果的なコミュニケーション方略（ジェスチャー、アイコンタクト、代用表現、聞き返しなど）の使い方を学ぶ。さらに、母国以外の言語や文化や歴史に敬意を払い、様々な国の生活習慣や宗教的信条、価値観などの基本的な事項について理解し、異文化の事象を自分たちの文化と関連付けて解釈する心を養う。				
授業の進め方・方法	Interpretive Readingによる英文解釈の基本である「7つのポイント（Who, To whom, When, Where, Why, What, How）」を常に意識して英文を分析し、音読し、取り込んでいく、という方法を取る。また、学んだ英文を「モード転換」する活動を通して、英文にある語彙や表現を日常の会話にすぐ使えるように内在化する。また、英語という、日本語と異なる表現形式に習熟できるように、「パラグラフ・ライティング」の基本を解説し、演習を行う。				
注意点	学んだ英文は、何度も音読し、自分の中に取り込んでいくこと。				
選択必修の種別・旧カリ科目名					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	オリエンテーション 「英語コミュニケーションの基礎的なスキルについて」	英語コミュニケーションの基礎的なスキルについて理解する。	
		2週	Lesson 1 Paragraph 1 What is a paragraph?	英語パラグラフとはどのようなものかを理解する。	
		3週	Lesson 2 Paragraph 2 Space Order Time Order	英語パラグラフ展開法として「空間配列・時間的順序」のパラグラフを理解する。	
		4週	Lesson 3 Paragraph 3 Process and Direction Cyclical Process	英語パラグラフ展開法として「過程と指示・循環」のパラグラフを理解する。	

		5週	Lesson 4 Paragraph 4 Cause and Effect	英語パラグラフ展開法として「原因結果」のパラグラフを理解する。
		6週	Lesson 5 Paragraph 5 Listing Illustration	英語パラグラフ展開法として「列挙・例示」のパラグラフを理解する。
		7週	Lesson 6 Paragraph 6 Restatement Definition	英語パラグラフ展開法として「言い直し・定義」のパラグラフを理解する。
		8週	課題発表会 1	第7週までに学んだ英語パラグラフ展開法を用いた自作パラグラフを口頭発表する。
	2ndQ	9週	Lesson 7 Paragraph 7 Classification Analysis	英語パラグラフ展開法として「分類・分析」のパラグラフを理解する。
		10週	Lesson 8 Paragraph 8 Analogy	英語パラグラフ展開法として「類推」のパラグラフを理解する。
		11週	Lesson 9 Paragraph 9 Comparison and Constrast	英語パラグラフ展開法として「比較対照」のパラグラフを理解する。
		12週	Lesson 10 Paragraph 10 Problem-solving Opinion and Reason	英語パラグラフ展開法として「問題解決・意見と理由」のパラグラフを理解する。
		13週	課題発表会2	第12週までに学んだ英語パラグラフ展開法を用いた自作パラグラフを口頭発表する。
		14週	まとめ	英語パラグラフ展開法について復習し、理解を深める。
		15週	英語講読IIIBに向けてのオリエンテーション「 Interpretive Readingの概要について」	Interpretive Readingの概要を理解する。
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	英語	英語運用能力向上のための学習	自分の専門分野などの予備知識のある内容や関心のある事柄に関する報告や対話などを毎分120語程度の速度で聞いて、概要を把握し、情報を聞き取ることができる。	3	前8,前15
				英語でのディスカッション(必要に応じてディベート)を想定して、教室内でのやり取りや教室外での日常的な質問や応答などができる。	3	前3,前15
				英語でディスカッション(必要に応じてディベート)を行うため、学生自ら準備活動や情報収集を行い、主体的な態度で行動できる。	3	前4,前15
				母国以外の言語や文化を理解しようとする姿勢をもち、教室内外で英語で円滑なコミュニケーションをとることができる。	3	前6,前15
				関心のあるトピックについて、200語程度の文章をパラグラフライティングなど論理的文章の構成に留意して書くことができる。	3	前9,前13,前15
				関心のあるトピックや自分の専門分野のプレゼン等にもつながる平易な英語での口頭発表や、内容に関する簡単な質問や応答などのやりとりができる。	3	前5,前8,前13,前15
				実際の場面や目的に応じて、効果的なコミュニケーション方略(ジェスチャー、アイコンタクト、代用表現、聞き返しなど)を適切に用いることができる。	3	前7,前8,前13,前15
	工学基礎	グローバルゼーション・異文化多文化理解	グローバルゼーション・異文化多文化理解	それぞれの国の文化や歴史に敬意を払い、その違いを受け入れる寛容さが必要であることを認識している。	3	前1,前15
				様々な国の生活習慣や宗教的信条、価値観などの基本的な事項について説明できる。	3	前10,前12,前15
				異文化の事象を自分たちの文化と関連付けて解釈できる。	3	前11,前15
分野横断的能力	汎用的技能	汎用的技能	汎用的技能	日本語と特定の外国語の文章を読み、その内容を把握できる。	3	前2,前15

評価割合

	中間試験	定期試験	課題	合計
総合評価割合	30	50	20	100
基礎的能力	30	50	20	100